

2010年3月期 (平成22年3月期)

第2四半期累計期間

決算経営報告

PART - 1. 第2四半期決算 概要

PART - 2. 「対応強化施策」実施

2009年11月17日  
三菱製紙株式会社

**2010年3月期  
第2四半期累計期間**

**決算実績**

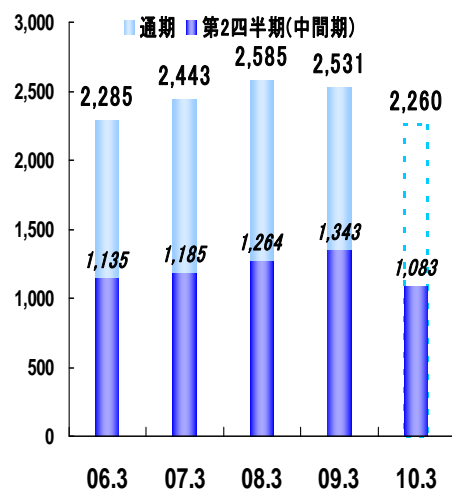
# 決算ハイライト <連結>



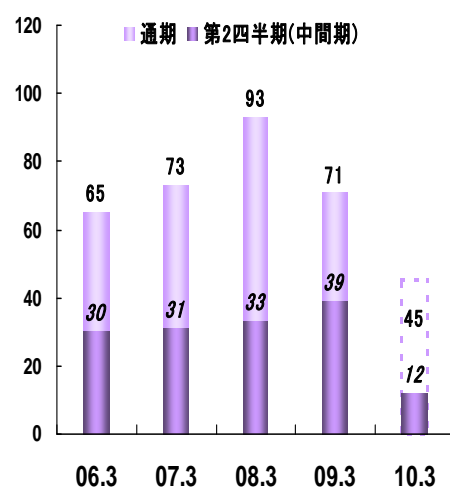
(単位: 億円)

	2009年3月期 第2四半期累計期間		2010年3月期 第2四半期累計期間		前年同期比		当初業績予想 (5月8日公表)
	金額	売上高 利益率(%)	金額	売上高 利益率(%)	金額	増減率 (%)	金額
売上高	1,343	—	1,083	—	▲260	▲19.3	1,150
営業利益	39	2.9	12	1.1	▲27	▲68.8	20
経常利益	31	2.3	2	0.2	▲29	▲92.1	5
純利益	32	2.4	▲16	▲1.5	▲48	—	▲10

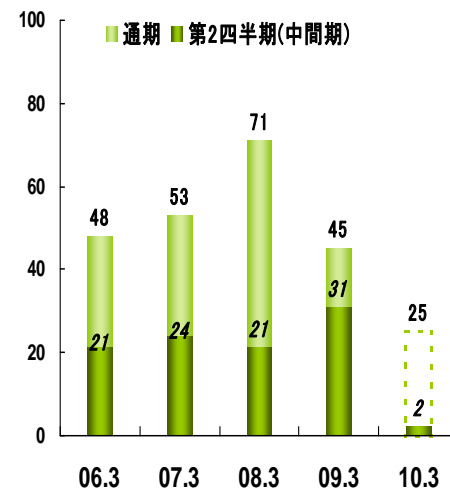
売上高



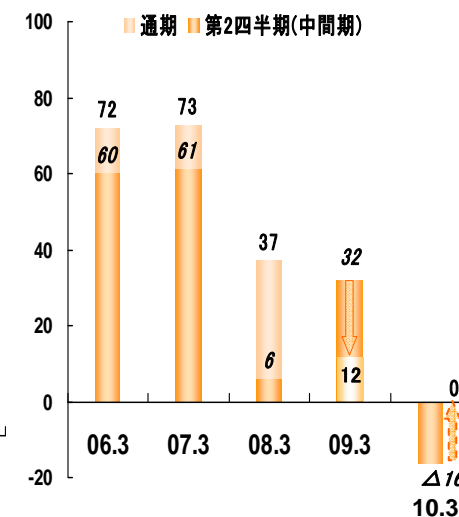
営業利益



経常利益



純利益



# 事業の種類別セグメント情報 <連結>

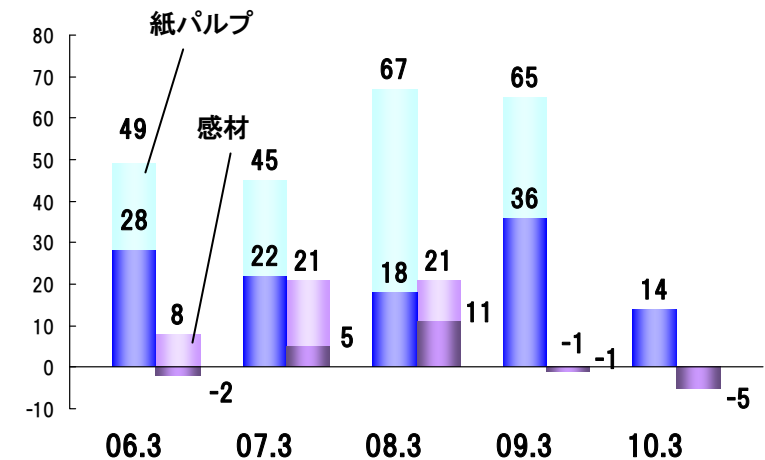
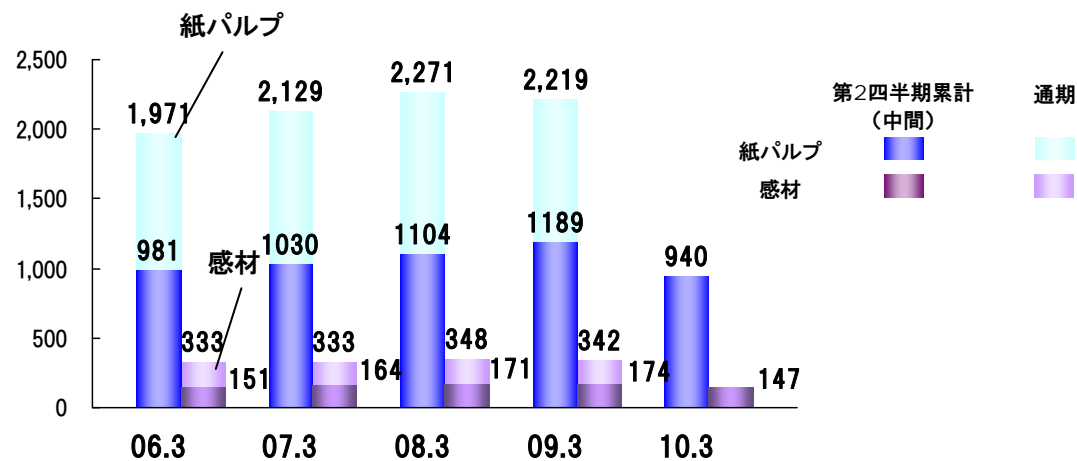


(単位:億円 %)

		2009年3月期 第2四半期累計期間	2010年3月期 第2四半期累計期間	増減額	増減率
売上高	紙パルプ	1,189	940	▲249	▲21.0
	感材	174	147	▲27	▲15.2
	その他	114	107	▲7	▲5.7
	消去	▲134	▲111	23	—
	合計	1,343	1,083	▲260	▲19.3
営業利益	紙パルプ	36	14	▲22	▲61.4
	感材	▲1	▲5	▲4	—
	その他	3	3	0	2.8
	消去	1	0	▲1	—
	合計	39	12	▲27	▲68.8

売上高 (単位:億円)

営業利益 (単位:億円)



# 所在地別セグメント情報 <連結>

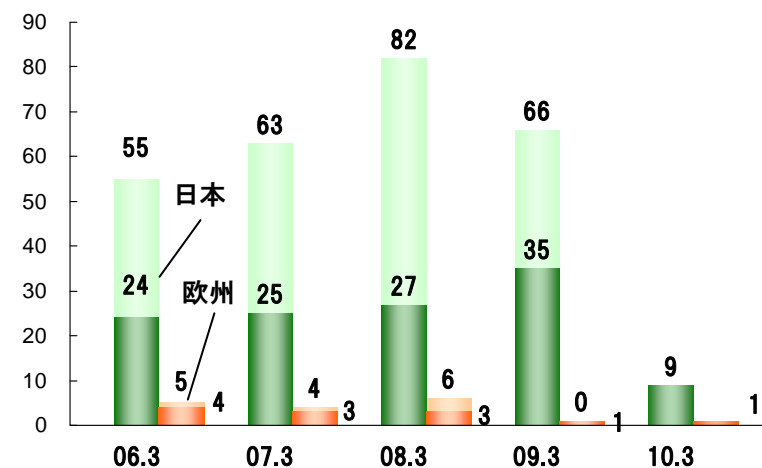
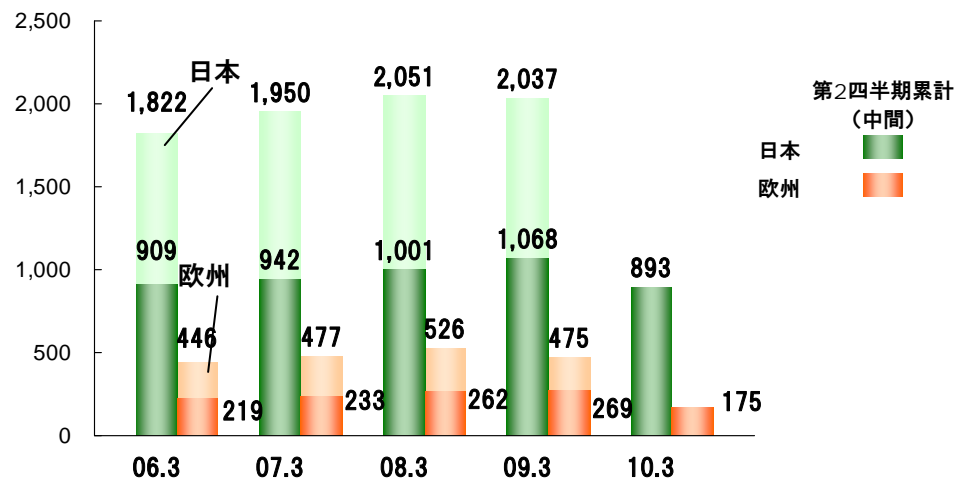


(単位: 億円 %)

		2009年3月期 第2四半期累計期間	2010年3月期 第2四半期累計期間	増減額	増減率
売上高	日本	1,068	893	▲175	▲16.3
	欧州	269	175	▲94	▲34.9
	米国	43	37	▲6	▲14.3
	消去	▲37	▲22	15	—
	合計	1,343	1,083	▲260	▲19.3
営業利益	日本	35	9	▲26	▲74.0
	欧州	1	1	0	20.3
	米国	1	1	0	31.6
	消去	2	1	▲1	—
	合計	39	12	▲27	▲68.8

**売上高** (単位: 億円)

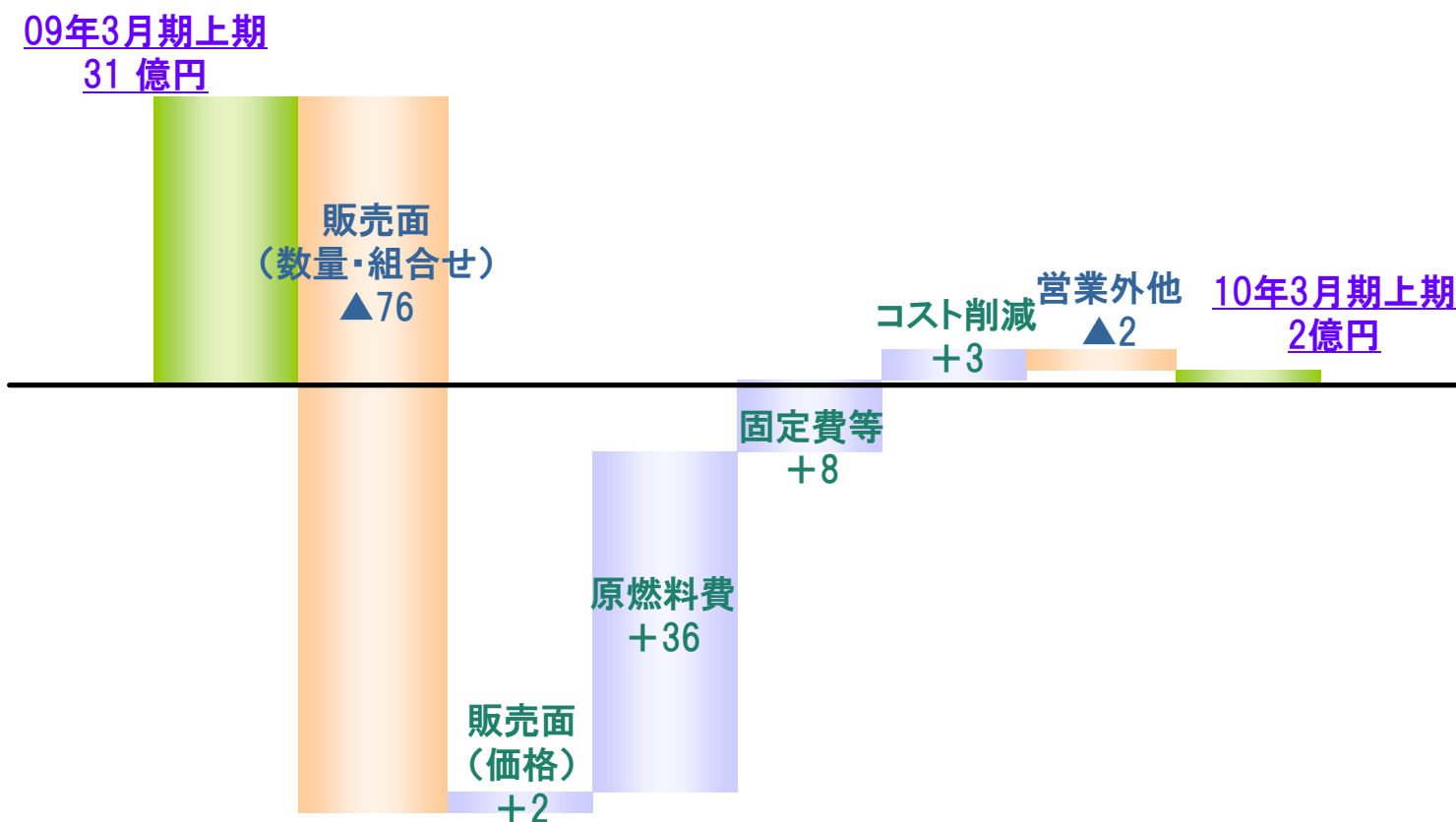
**営業利益** (単位: 億円)



# 経常利益増減要因 <連結>



2010.3期第2四半期累計期間



# 貸借対照表 <連結>



(単位:億円 %)

	2009年3月末		2009年9月末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	金額
<b>資産合計</b>	2,943	100.0	<b>2,927</b>	<b>100.0</b>	▲16
流動資産	1,166	39.6	1,127	38.5	▲39
固定資産	1,777	60.4	1,800	61.5	23
有形固定資産	1,362	46.3	1,359	46.4	▲3
無形固定資産	14	0.5	12	0.4	▲2
投資その他の資産	401	13.6	429	14.7	28
<b>負債合計</b>	2,238	76.1	<b>2,239</b>	<b>76.5</b>	1
流動負債	1,588	54.0	1,512	51.7	▲76
固定負債	650	22.1	727	24.8	77
<b>純資産</b>	705	23.9	<b>688</b>	<b>23.5</b>	▲17
<b>有利子負債(工事未払金含む)</b>	1,635	—	<b>1,675</b>	—	40

# キャッシュ・フロー計算書 <連結>



(単位:億円)

	2009年3月期 第2四半期 累計期間	2010年3月期 第2四半期累計期間	増減
	金額	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	11	42	31
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲40	▲66	▲26
財務活動によるキャッシュ・フロー	45	22	▲23
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
現金及び現金同等物の増減額	16	▲2	▲18
現金及び現金同等物の期首残高	23	35	12
現金及び現金同等物の期末残高	39	33	▲6



# 通期業績予想

# 通期業績予想 < 連結・上上・下下・通期比較 >



(単位: 億円 %)

	2009年3月期			2010年3月期			増減					
	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期 (予想)	通期 (予想)	上期		下期(予想)		通期(予想)	
							金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
売上高	1,343	1,188	2,531	1,083	1,177	2,260	▲260	▲19.3	▲11	▲0.9	▲271	▲10.7
紙・パルプ	1,189	1,030	2,219	940	1,010	1,950	▲249	▲21.0	▲20	▲1.9	▲269	▲12.1
感材	174	168	342	147	170	317	▲27	▲15.2	2	1.0	▲25	▲7.2
その他	114	102	216	107	110	217	▲7	▲5.7	8	7.5	1	0.6
消去	▲134	▲112	▲246	▲111	▲113	▲224	23	—	▲1	—	22	—
営業利益	39	32	71	12	33	45	▲27	▲68.8	1	1.5	▲26	▲36.7
経常利益	31	14	45	2	23	25	▲29	▲92.1	9	58.0	▲20	▲44.4
当期純利益	32	▲20	12	▲16	16	0	▲48	—	36	—	▲12	▲100.0

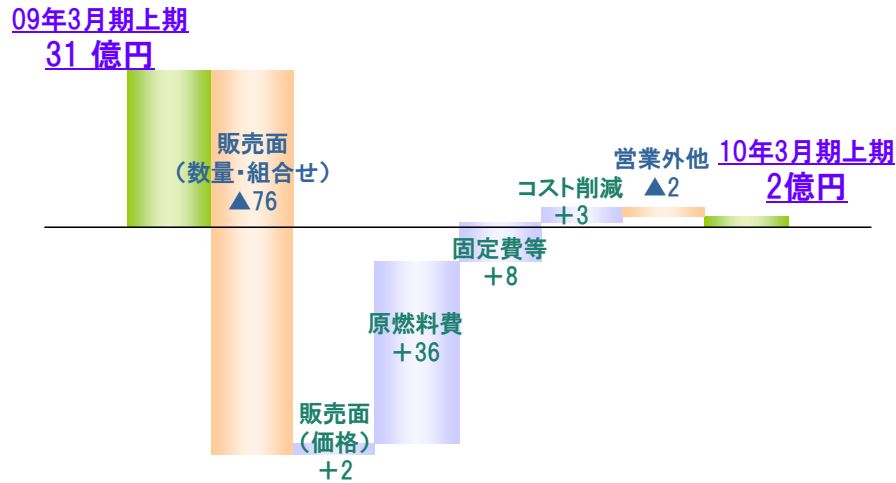
下期予想の前提: 1\$ = 95円、ドバイ原油相場1バレル = \$70

# 経常利益予想 増減要因

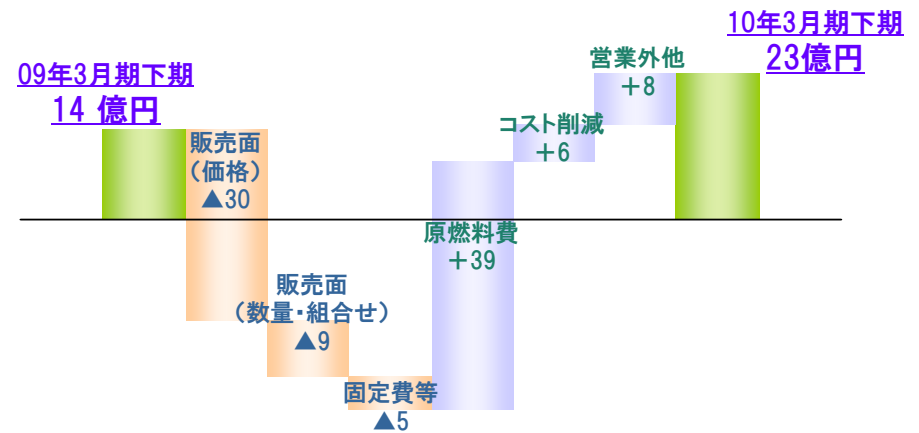
< 連結・上上・下下・通期比較 >



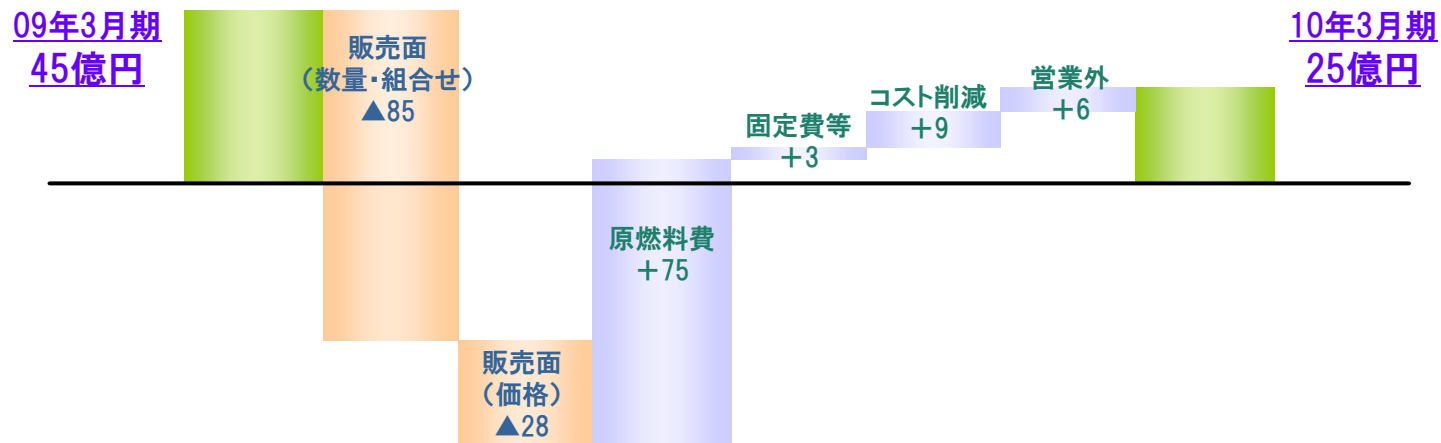
上期実績比較



下期予想比較



通期予想比較



	2009年3月期 第2四半期累計期間	2010年3月期 第2四半期累計期間	2010年3月期(予想)
有利子負債 (工事未払金含む)	1,640億円	1,675億円	1,650億円
減価償却費	64億円	65億円	130億円
設備投資額	90億円	55億円	80億円
従業員数	4,599人	4,632人	4,470人

# 参考情報 <単体>



(単位: 千t・億円)

品種内訳		2009年3月期				2010年3月期			
		第2四半期累計期間		通期		第2四半期累計期間		通期 <sup>予想</sup>	
		販売数量	販売金額	販売数量	販売金額	販売数量	販売金額	販売数量	販売金額
紙	非塗工紙(上級紙他)	92	113	179	221	79	98	160	195
	塗工紙 (コーテッド紙・IJ用紙他)	328	446	616	826	246	328	532	701
	情報用紙 (感熱紙・ノーカーボン紙他)	47	105	87	202	40	93	79	183
	板紙	24	27	45	53	22	27	45	53
	その他 (薄葉紙・家庭紙・不織布他)	9	50	17	98	8	43	16	94
合計		500	741	944	1,400	395	589	832	1,226

	2009年3月期 第2四半期累計期間	2010年3月期 第2四半期累計期間
為替レート	106.23円/US\$	95.27円/US\$
原木チップ使用数量 (輸入材比率)	607千t (66%)	500千t (67%)
購入パルプ使用数量 (購入比率)	45千t (11%)	23千t (7%)
重油使用量	20千kl	19千kl
石炭使用量	155千t	131千t
買電使用量 (自家発電比率)	144MWH (80%)	130MWH (79%)

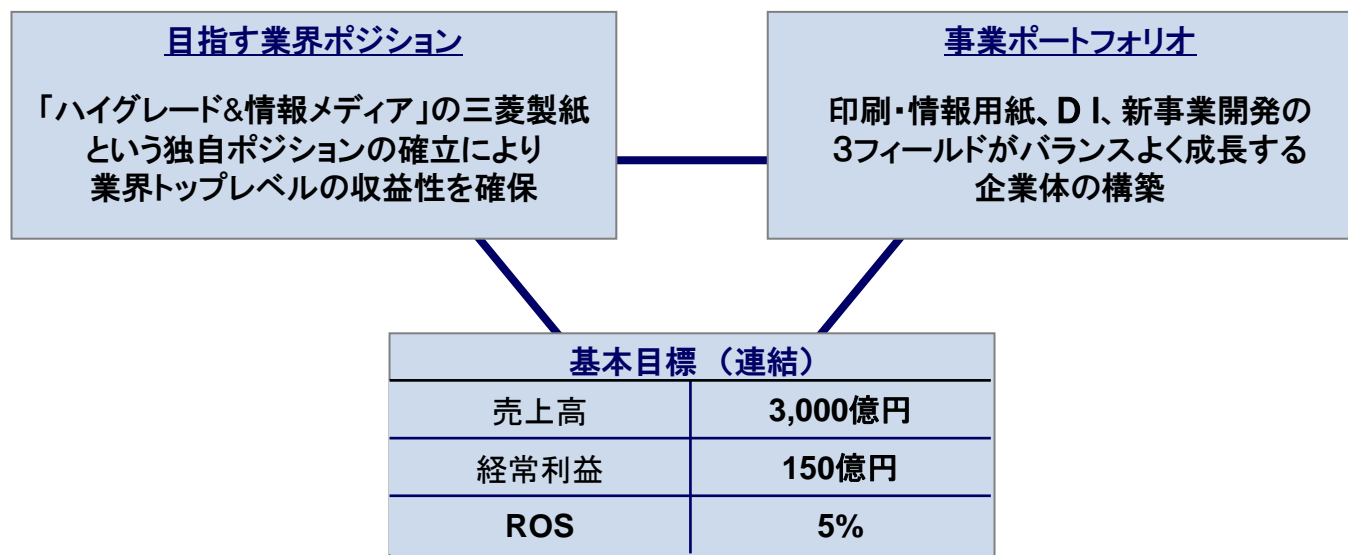
注: 原燃料使用数量には北上ハイテクペーパー分を含みます。

## — 厳しさを増す経営環境への対応 —

# [ 対応強化施策 ]

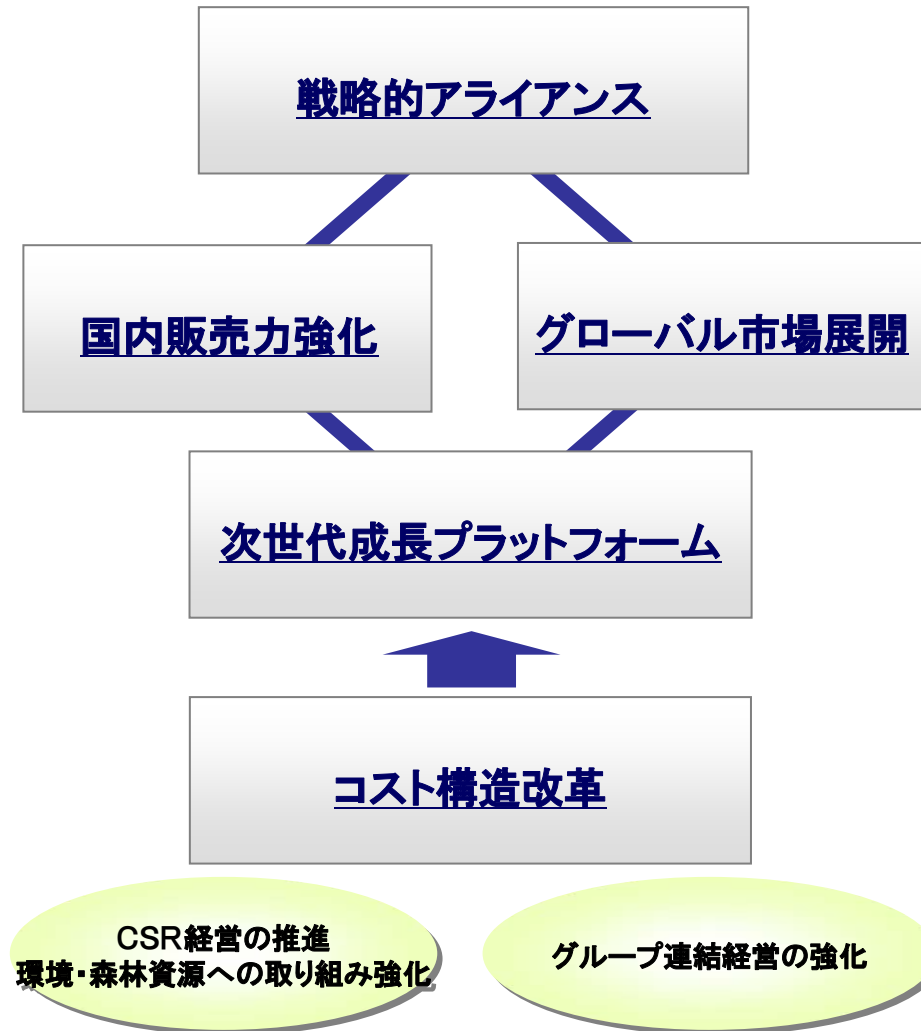
『規模』から『コスト競争力』『付加価値』へ  
～「需要構造変化への対応」と「基幹事業の生き残り」～

## ポスト フェニックス プラン (中期経営計画)で目指したもの



発展可能な企業像として、不変

# これまでの取り組み



## 戦略的アライアンスの推進

- 富士フィルムとの提携<RC原紙拡販>  
→ 同社にRC紙供給中
- 王子製紙との提携<情報用紙生産統合>  
→ 同社感圧紙の一部を八戸で生産中
- 印刷用紙のサプライソース拡大  
→ 三菱製紙販売で北越紀州製紙・大王製紙の代理店販売を開始

## 国内販売力の強化

- FSC森林認証紙の展開<印刷・情報用紙の拡販>  
→ 2009年度 1万t/月体制確立
- インクジェット高付加価値品開発  
→ 高級フォトグレード品の開発拡販開始

## グローバル市場展開

- ドイツ事業のリストラクチャリング  
→ 生産品種見直し、プロダクトミックス改善

## 次世代プラットフォーム

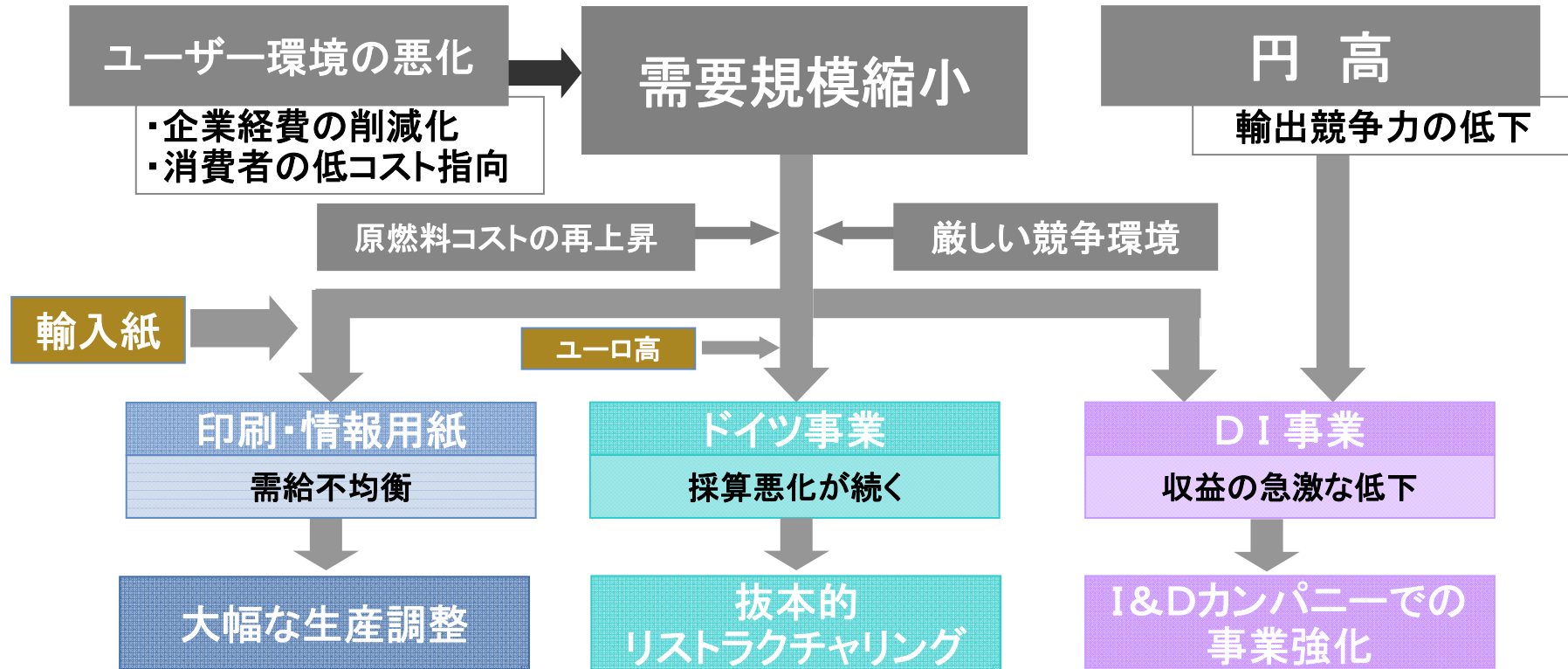
- 八戸工場の生産インフラ整備<将来拡張のエネルギー供給確立>  
→ 需要環境を踏まえ再検討中
- 中国加工拠点の建設<コストダウンと海外市場開拓>  
→ 中国珠海でフィルターユニット組立工場稼働

## コスト構造改革

- 各工場のコストダウン推進 <減産下での利益回復>



# 2008年後半からの環境変化、対応

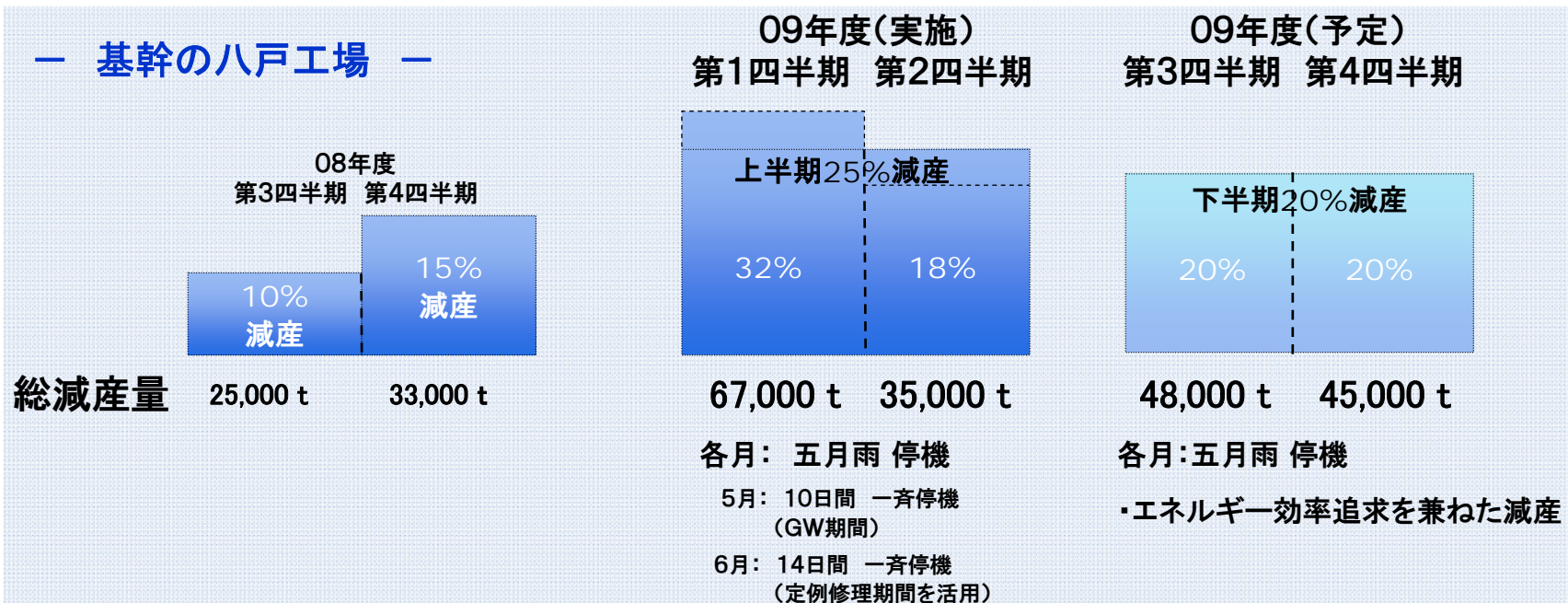


## 外部環境の変化

- ・世界的需要急減 → 洋紙やD I部門の売上激減。海外事業(ドイツ等)も悪化。
- ・円高 → 輸出売上低下 → DI部門の収益悪化。一方、輸入紙の圧力増。
- ・需要構造の変化 → 洋紙、印刷製版材料の売上に影響。

## 印刷・情報用紙の大幅減産を継続

### — 基幹の八戸工場 —



- 情報用紙の生産拠点再配置へ
- 一層のコストミニマム追求

## MPBにて抜本的リストラクチャリング

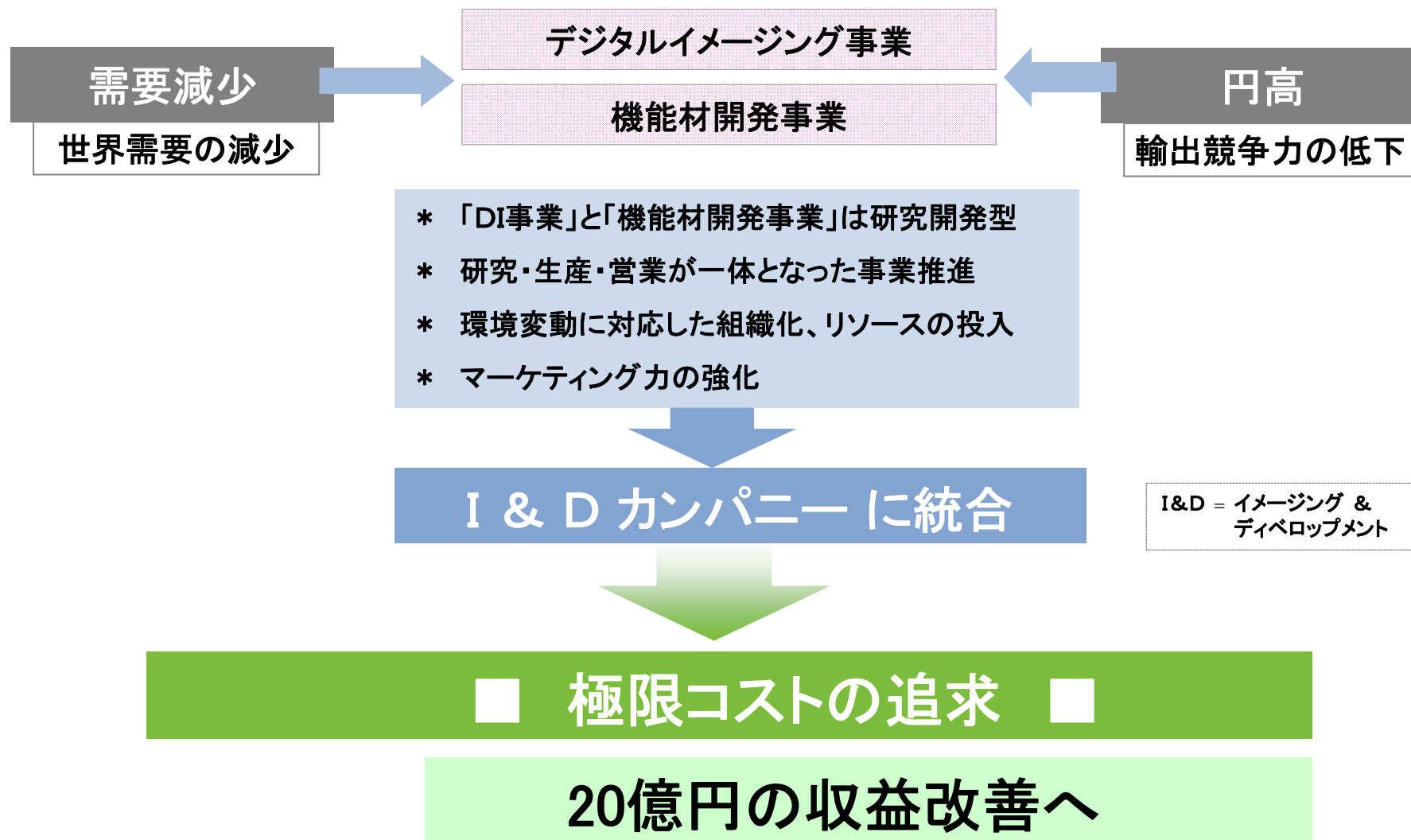
MPB : Mitsubishi HiTec Paper Bielefeld GMBH

1. 1号抄紙機(3万t/年)は7月末に休止、現在 3号抄紙機(12万t/年)のみで運用
2. 全てのキャストコーター(4台)は8月末までに休止
3. 約120名の人員削減が年内に完了
4. 生産品種見直し、プロダクトミックス改善
5. 抜本的な組織見直し、集約(MPF+MPB)
  - ①営業体制、物流・購買体制の強化
  - ②研究体制の統合・強化
  - ③経営や管理部門の集約



今期の採算改善目標15億円、順調に推移

# 環境変化への対応 ③ I&Dカンパニー効果創出



## 外部環境の変化

需要構造が変化  
情報メディア  
紙媒体からネットなど  
紙媒体の規模  
「マス」から「ミドル」へ

## 対 応

- ① 「量拡大」は困難 → 現状需要での利益確保、付加価値の徹底追求
- ② 紙媒体を利用した「デジタル印刷」時代への対応力強化  
デジタルプリント(商業印刷含む)の対応強化  
軽印刷システムの簡素化とトータルコストダウン(サーマルデジプレート等)
- ③ 製品の「付加価値創造」  
環境性・アート性などのユーザー価値多様化に対応
- ④ 「非情報メディア分野」の展開強化  
不織布をベースとする事業  
電子分野等の新事業

# 7つの「対応強化施策」

## 1. 需要に適した効率的生産体制の構築（生産規模縮小・要員再配置と削減）

- ・ 高砂工場の12号抄紙機の休止：年産能力66,000t、ノーカーボン・感熱原紙を抄造
- ・ 情報用紙の生産拠点再配置：高砂工場から八戸工場へ原紙（感熱、感圧）生産移管
- ・ I&Dカンパニーの要員再配置（I&D = イメージング & デイベロップメント）

## 2. 徹底したコストダウンの推進

- ・ I&Dカンパニーの極限的コスト構造の実現
  - ① 京都工場、KHP、関連会社、本社にわたる「横断的コスト削減」
  - ② 仕上げ体制再構築 ③ 物流体制最適化 ④ 不採算銘柄の見直し
- ・ 八戸、高砂工場のコストダウン源の更なる掘り起こし
- ・ 洋紙物流のコスト削減

## 3. 本社費用の大幅削減

- ・ 研究体制の合理化
- ・ 本社 及び 関連会社のコスト削減

## 4. 印刷・情報用紙の高付加価値化推進

- ・ デジタルプリント対応用紙の市場展開
- ・ 各種新規アート紙の開発と商品展開
- ・ FSC森林認証紙の拡販、間伐材利用紙の推進

# 7つの「対応強化施策」

## 5. I & D カンパニー新規商品の市場展開、及び非情報メディア分野の展開強化

- ・ サーマルデジプレート(TDP)の更なる拡販
- ・ 新規IJメディアの世界規模での拡販
- ・ 新機能性不織布の開発と拡大

## 6. 海外事業安定化と事業拠点の活用促進

- ・ ドイツ事業リストラクチャリングの確実な効果発現
- ・ 中国事業拠点の広範な活用、拡大

## 7. アライアンスの確実な効果発現

- ・ 富士フィルムとの提携
- ・ 王子製紙との情報用紙に関する提携



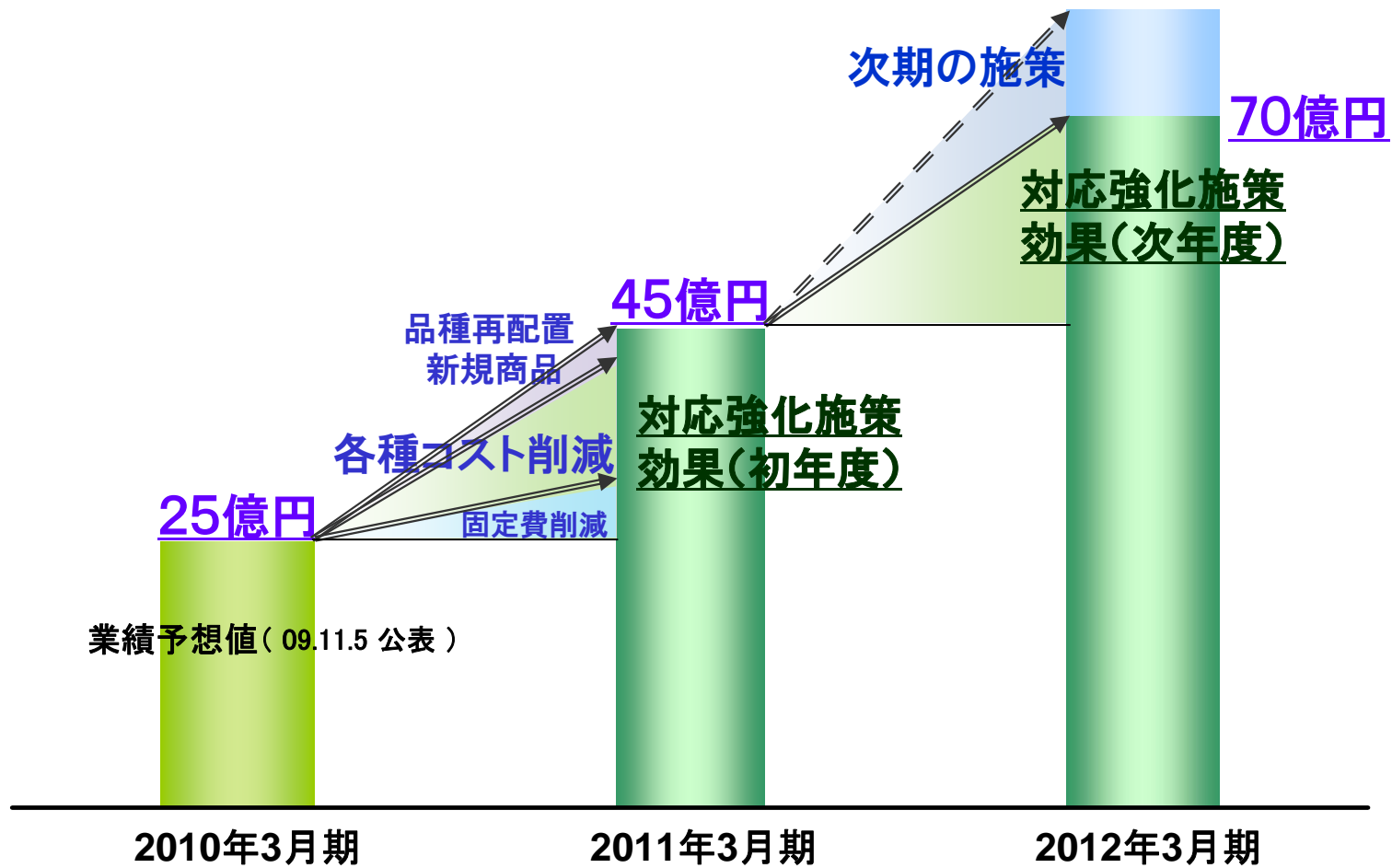
これらの施策効果：今後2年間で45億円発現

内、来期中に最低限20億円を達成

(上記施策による要員削減数、300名)

# 今後の業績想定

<連結経常利益>





本資料における予想数値や業績見通しに関する記述は、現時点における将来の経済環境予測や入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の実際の決算・業績数値とは異なる可能性があります。